

■青山二郎 '好き'に徹して生き、骨董への優れた'眼'によって、'学校'を形成、多くの文人らに影響を及ぼした。

あおやまじろう

田中正造直訴1901= 東京の広尾で、婿養子の銀行員の次男に生まれる。

父は奇人といわれながらも、商才があり、地所を広げて大資産家となって行く。母はクーデンホーフ光子の従妹。

日露戦争終・1905= 4歳：

韓国併合・・1910= 9歳：

大家族の皆から愛され、とくに母親の溺愛を受けて育ち、

明治天皇没・1912=11歳：

小学校を1,2を争う成績で卒業して、

21ヶ条要求・1915=14歳：

麻布中学校に入学するが、不登校に陥り、**兄の影響で絵画に興味を抱き始め、古美術商から高価な骨董を買い入れ驚かれる。**

第一次大戦終1918=17歳：

**父に本を捨てられたことを怒って、複製画を売却した金を持って、京都へ家出した。**

ベルサイユ条約・1919=18歳：

日本大学法科に籍を置くものの、その後の学歴は不明で、**アマチュア美術団体に油絵を出品したり、骨董とくに中国古陶磁の蒐集に熱中し、**

原敬首相暗殺1921=20歳：

兄が在籍していた東京帝大美学科の奥田誠一と実業界の趣味人らがつくった{彩陶会}に入出し、また、**柳宗悦と出会い、朝鮮陶器にも興味を持ち始めると、**

治安維持法・1925=24歳：

浜田庄司の展覧会場で野村八重を見初める。

円本時代始・1926=25歳：

柳らの「日本民芸館設立趣意書」にも署名。八重と結婚するも、

金融恐慌・・1927=26歳：

結核が悪化して死去。**奥田誠一の手引きで横河民輔蒐集の中国陶磁図録作成を特別委託され、**

共産党事件・1928=27歳：

**編集作業に没頭する一方、工政会の倉橋藤治郎と{陶話会}を結成して、**

海軍軍縮条約1930=29歳：

**\*日本橋三越で{宋窯展}を開催、一時朝鮮に渡り、また父の反対を押し切って武原はんと再婚などしながら、**

満州事変・・1931=30歳：

**「甌香譜」として刊行。柳の創刊した雑誌{工芸}の編集を手伝う。再び、朝鮮に渡り工芸品を蒐集、**

五一五事件・1932=31歳：

**有名人の後援を受けて{朝鮮工芸品展覧会}を開催し、李朝ブームを起こす。民芸臭を嫌って柳から遠ざかる一方、自宅に小林秀雄・河上徹太郎・三好達治・今日出海らが集まり、"青山学院"が形成されて行く。また、実家から多額の小遣いを貰うも、飲み会や骨董に蕩尽して借金生活となる中、小林秀雄の本の装幀。**

国際連盟脱退1933=32歳：

母が死去して資金源を失い、貧窮してアパート暮らしとなり、はんとも別居、

帝人疑獄事件1934=33歳：

離婚に至る。**「アンドレ・ジイド詩集」装幀。**

日中戦争始・1937=36歳：

同じ花園アパートに、伊集院清二・中原中也・小林秀雄らが同棲・新婚生活で居住、**"青山学院"が発展、**

総動員+健保 1938=37歳：

**\*中原中也「在りし日の歌」装幀、代表作となる。**

大政翼賛会・1940=39歳：

**河上徹太郎「道徳と教養」装幀。**

この間、雑誌{文学界}{日本映画}の装幀。

日米開戦・・1941=40歳：

近代の超克・1942=41歳：

**\*伊東に疎開、全てを自らの好みに合うように模様替えし、友人らも訪問して"青山学院"が続く一方、古美術を楽しむ会{むぎわら・くらぶ}が形成される。**

創価学会検挙1943=42歳：

「利休伝ノート」の執筆開始。

敗戦・・・1945=44歳：

新憲法公布・1946=45歳：

創刊された美術文芸雑誌(創元)に、**処女評論「梅原竜三郎」を発表(小林は「モオツァルト」を発表)。宇野千代「色ざんげ」装幀。**

極東裁判決・1948=47歳：

**大岡昇平「俘虜記」装幀。**

この間、文章を書いたり、装幀を手がけて収入を得る。

独立回復・・1951=50歳：

55年体制始・1955=54歳：

国連加盟・・1956=55歳：

この頃から、**\*毎夏を広島で過ごし、ヨットや水泳を楽しむようになり、**

安保闘争・・1960=59歳：

この頃、高速道路建設のため、実家の土地で大金を手にする一方、福原和子と再婚すると、**文章・装幀をパツパツと止めて、冬季を志賀高原で過ごし、雪上自転車を楽しみ、**

東京リンピック 1964=63歳：

{加藤唐九郎個展}を開催。

全共闘・・・1969=68歳：

この頃、小布施桜井甘精堂主人桜井佐七と出会い、ともに越後高田の骨董屋(遊心堂)へ通うようになる。

大阪万博・・1970=69歳：

常滑出身の作家陶家伊奈久との親交が始まる。

石油ショック 1973=72歳：

この頃から具合が悪くなる。

田中角栄逮捕 1976=75歳：

入院後、自宅療養となる。

革新大敗北・1979=78歳：

**没した。**

別冊太陽「青山二郎の眼」,